OMIYA MAIL NEWS
JR East Transport Service Workers Union
JR東日本輸送サービス労働組合
JTSU-E OMIYA 大宮地方本部
2024.02.23
No. 025
HOMEPAGE TWITTER

輸送サービス労組大宮地本
全組合員と語る2・22地本委員会開催！

委員会宣言満場一致で承認！

委員会宣言(案)

JR 東日本輸送サービス労働組合大宮地方本部は、本日、レイボックホール（市民会館おおみや）集会室 8 において、「全組合員と語る 2・22 地本委員会」を開催した。大宮地本結成 4 年目にして初めて開催された地本委員会は、安全・サービスレベルが低下し、グループ・関連会社も含めた労働条件・環境が悪化している現状を打破し、健全な JR 東日本・グループ会社を取り戻していくために、輸送サービス労組の強化と拡大を実現させることを満場一致で確認した。

2024 年は元日から能登半島地震が発生、2 日には羽田空港接触事故、3 日には山手線秋葉原駅での殺傷事件等、 安全に係わる、そして命に係わる事故・事象が立て続けに発生している。公共交通機関にとって何よりも優先しなければならないのは安全だが、その安全を創り出すのは現場であり、担うのは現場組合員である。今の職場は「融合と連携」の名の下に効率化施策が推し進められ、労働密度が高まるだけでなく、安全よりも利益第一主義が徹底された職場になっている。安全文化が崩壊している証左が、1 月 23 日新幹線の架線垂下の復旧作業中に発生した感電事故だ。現象から原因を究明し深掘りし、再発防止に繋げることが重要なことだが、原因究明能力の劣化が叫ばれている JR 東日本会社では、真の原因究明ができるのか甚だ疑問だ。隠蔽体質が顕在化していることにも疑義を抱かざるを得ないが、大宮地本は安全レベルの低下を招く施策には反対し、再発防止に繋がる声を出し続けていく。

2024 年度賃金のベースアップ実現の取り組みは、ベースアップは「純ベアー律 3,000 円+定率 5%」、「エルダー基本賃金に一律 18,000 円加算」、定期昇給は「昇給係数『4』の完全実施と、所定昇給額の 2,000~3,000 円の増額」を求めていく。物価上昇に負けないベースアップが求められているが、その機運は高まっている。厚生労働省が「物価高に賃金上昇が追い付いていない」ことを明らかにし、岸田首相や経団連も「物価上昇に負けない賃金引き上げを目指すことが企業の社会的責務」と考え方を表明している。JR 東日本会社が公表した第 3 四半期決算では、3 期連続の増収・全てのセグメントで増収増益かつ黒字となり、業績の上方修正も発表されている。支払い能力は十分にある。また、大宮支社が発表したコストダウン実績は 3.7 億円であり、すでに年間目標を達成している。これは現場組合員の努力により達成されたものであり、現場で働く労働者に還元されなければならない。職場から「一根拠運動」を実践し、JR 東日本グループで働く全ての仲間の力で、2024 年度賃金のベースアップを実現しよう。

大宮地本管内では、組織再編により大宮と宇都宮が統括センターになり、小山運輸区と八王子支社に武蔵野運輸区が発足する。さいたま車掌区分会では、分会長と事務長が希望していない八王子支社武蔵野運輸区へ事前通知が手交された。特に分会長は、先の分会大会において、組合員の信任を得て選出されているが、その任期途中での異動は組織破壊であり、認めることはできない。人事権を濫用した武蔵野運輸区への異動撤回を求めて闘いをつくり出していく。

JR 東日本会社は、「統括センター化」や「兼務」によって労働が複務化・多能化され、労働と質は高まる一方で、過度なコスト削減や要員不足により職場は疲弊している。また、グループ・関連会社の労働条件・環境の劣悪さが、エルダー組合員の悲痛な声から明らかになっている。大宮地本管内では、新たに JTSU に個人加盟した仲間もいる。グループ会社全体の価値を高めるために、輸送サービスに携わる全ての仲間と連帯して、労働条件・環境の改善実現を目指していく。JR 東日本輸送サービス労働組合大宮地方本部は、一人ひとりの声を掴み、団体交渉を実施し、労働環境改善を実現させるため奮闘していく。

今委員会において、大宮地本で 4 分会目となる「宇都宮統括センター分会」が誕生し新たなスタートを切った。一人ひとりの声を大切にし、全組合員の運動にこだわり、組織強化・拡大にむけて更なる飛躍を勝ち取ろう！

以上、宣言する。

2024 年 2 月 22 日
JR 東日本輸送サービス労働組合
大宮地方本部
全組合員と語る2．22地本委員会